

令和8年度 第1回江別市総合戦略推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和8年7月29日（水）午後6時から午後7時13分まで

場 所：江別市民会館21号

出席委員：福沢康弘委員長、龍田昌樹副委員長、保田真希委員、
佐藤裕則委員、畠山真理委員、干野里佳委員、
佐藤誠一委員、小橋恵美委員、鈴木笑子委員
（計9名）

欠席者：布施望委員、樋口登委員、伊藤亮子委員、
松岡宏一北海道石狩振興局地域創生部長（オブザーバー）

事務局：金子企画政策部長、伊藤企画政策部次長、中島デジタル政策室長、
佐藤CIO補佐官、菅野行政デジタル化担当参事、
池田デジタル政策担当参事、高橋主幹、
天明屋政策推進課参事、八柳主査、高橋主査

傍聴者：なし

会議概要

1 開会

2 報告事項（1）第3期江別市総合戦略の令和7年度実績について

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

KPIは5年間の計画であり、最終年度に達成すればいいという話なので、単年度の結果で一喜一憂する必要はないと思っている。ただ、基本目標1のKPI「誘致により立地した企業・事業所数」が「0件（目標8件）」になっている。焦る必要はないが、1年目の結果について、どのような受け止めをしているのか。

○事務局

令和7年度の実績が0件という報告を受け、担当とは「どういうところに問題があり、今年度はどういうアクションをするか」について意見交換を行っている。今年度については実績が上がるよう、担当課で進めていきたいと確認しているところ。

○福沢委員長

繰り返して申し訳ないが、焦る必要はなく、5年間で達成すればいいが、やはり「0」というのはインパクトがあると思ったので質問した。

○龍田副委員長

アンケートの配付先について、外国人を除いているということはないか。届いたものの中にパキスタン人の方の意見が該当していれば、それも反映されているのか。

○事務局

まちづくり市民アンケートにおいて調査をしているが、調査項目に国籍の項目を設けていないため、回答者の国籍は把握できていない。ただ、市民生活課に共生担当を置いて取組を進めているので、そちらで外国の方からお話を聴き取るような取組も進めると聞いている。

外国人が増えてきた今の状態で、改めて属性を聞いた上で「その人たちが市政に対してどのように感じているか」を確かめることも、今後は考えなければならないと思う。外国人が少なかった頃は必要性が低かったかもしれないが、これだけ増えてきたので、質問の仕方も今後検討していきたい。

○佐藤裕則委員

まちづくりや子育てなどが評価されているという話があった。私は札幌に住んでいるが、こういう委員をやっているからこそ「江別はすごく子育てがしやすい街だな」と分かる。ただ、札幌にいとそうした情報がなかなか入ってこないように思える。江別の住みやすさや子育てのしやすさは、どのような方法でPRされているのか。

○事務局

江別のPRという部分では、地方創生交付金のソフト事業として「江別シティプロモーション高度化プロジェクト」を進めている。まちづくりアドバイザーのヒロ福地氏にアドバイザーになっていただき、ラジオ番組の中で「EBETSU TIMES」というコーナーを設けていただいたり、YouTube チャンネルでの発信などを通して、市外の方へのPRを進めている状況。

○佐藤裕則委員

正直なところ、そうした取組が本当に効果を上げているのかという気もする。ヒロ福地氏はすごく人気のある方で、YouTube やラジオ番組もそれなりに効果はあると思うが、実際どれくらい効果を上げているのかを検証しながらやっていった方がいいと思う。

○鈴木委員

今の子育て施策というところでは思ったことがある。例えば、大麻体育館で配布されている観光名所を紹介する冊子「えべつコレクション」だが、これの「子育て版」があれば良いと思う。

インスタグラムでも江別市から「えみくる」などの情報発信がされているが、江別の強みとして、原生林や湯川公園など、子どもたちがのびのびと自然の中で色々な体験ができる場所があると思う。そうした情報を凝縮した、どこでも手にとれるものがあればもっといいと思った。

先ほど副委員長もパキスタン人の方の話をされていたが、色々な国の方が増えているからこそ、江別の情報を、インスタグラムをあまり見ない人でも、どこかの公共施設やちょっとした場所で、こうして便利な情報にアクセスできる機会があるといいと感

じていた。もし検討の機会があればお願いしたい。

○事務局

スマホで情報を取得する方が非常に増えた中でも、公共施設にパンフレットがあつて手に取ると見やすいという「紙の良さ」は今でもあると聞く。

市としての取組だが、子ども家庭部で数か月前に新しくインスタグラムを立ち上げた。また、現在、広報広聴課では、今年度中の完成を目指してホームページのリニューアル作業を進めている。

「紙も大事」というのは本当にそうだと思う。子が生まれた世帯へ配付する「ホップステップえべつ」という紙の媒体があるが、その後、1年、2年と経つうちに手に入りづらい状況になっているのかもしれない。そのあたり、紙の活用をしっかり考えるよう担当部門にも伝えていかなければならないと思っている。

○佐藤誠一委員

自治会連絡協議会は現状も多くが紙による情報であり、今まではSNSやデジタル活用が進んでいなかった。

デジタルを活用し始めたばかりで、急に多くの人が見ることは難しいだろう。5年の期間の中で、お祭りのたびにQRコードでアプローチするなど、紙には限界があるので、媒体がどちらかということではなく、両方を活用するべきである。ただ、これまでは紙が当たり前だったので、もう少しデジタルを強調してもいいと思う。何かあったときに必要な情報があるのはやはりデジタルだと思う。

回覧板を5万世帯に回すのはお金がかかるが、世帯に1人はスマホを持っている。個人でも保有率は8割、9割に達している。遅れている自治会でもようやくデジタルにシフトしていこうという、ちょうど過渡期なので、両方ともデザインを含めて発信していただければと思う。選ぶのは市民。そうしていかないと自治会もなかなかデジタルに移行しない。5年、10年経てば必ず逆転するので、ぜひ頑張っていていただきたい。

○小橋委員

私は「えべナビ！」などをよく見ていて、すごく良い媒体を作っているなど感じている。検索するとサイトの上位に出てくるので、一般的なことを知るという意味でも分かりやすい。

「えべつコレクション」もよく見るが、紙は、可能な限りより良い配布場所が選ばれるといいと思う。QRコードなどをたくさん載せていくことで、紙とデジタルの融合ができるのではないかと思う。

これは意見だが、パキスタンやベトナム、中国など、様々な国籍の方が市内で暮らしている。私も回覧板をパキスタン人の方が住むお宅に持っていったことがあるが、「読めないからもういいです」という話になってしまった。やはり「読めること」がアクションを起こすきっかけになると思う。もしアンケートを送るのであれば、相手が読めるものを送る。回答者は自国語で書いて提出し、やり取りができることが大事だと思って

いる。

ここからは質問だが、まず1点目、先ほど言っていたパキスタン人の方たちに送っているであろうアンケートは、その方の自国語で送られているのか。

2点目、資料2の4ページにある「放課後児童クラブ登録児童数」が伸びている件だが、これは「どれだけの児童が利用したくて、そのうちどれだけの人数が利用できているのか」というほうが、満足度に関係するのではないかと思う。

私の職場は福祉関係でそうしたお子さんや保護者の方と関わる機会が多いが、「学童の選考から漏れた」、「1年生しか利用できない」という話をたびたび聞く。そのため、現場としては満足度が下がっていると感じていたが、数字としてはどうなっているのか。

○事務局

1点目の質問について、まちづくり市民アンケートは、日本語のみとなっている。

2点目の質問について、利用を希望している児童数が何人いて、そのうち何人が利用できているかという数字については把握していないため、担当課に確認を取り、委員の皆様へメール等でお知らせしたい。

○保田委員

ホームページのリニューアルに伴って、例えば子育ての部分であれば、簡単にクリックして先ほどのマップが見られたり、どこに相談に行けるのか、どこにどういう資源があるのかがひと目で分かる「社会資源マップ」のような形でのリニューアルも良いのではないかと思った。子育て部門や介護、高齢者部門などでそのようなマップがあると良いと思うのが1点目。

2点目が、デジタルと紙媒体の両方を考える上で、外国籍の方が増えていることから、私はやはり紙媒体を残すのもありだと思う。ただ、何枚も重なっているものよりは、簡単に見てわかるようなもの。それが日本語だけではなく、英語や中国語、韓国語といった、だんだんと増えている方の言語で見ることができるようになると、より多くの方が江別の社会資源を知る機会になるのではないかと思った。

学童のところも、以前調査した際にも思ったのだが、低学年での利用が中心で、そこから漏れてしまった後に「子どもの居場所をどうするのか」がやはり課題になっていると思う。札幌市の「ミニ児童館」のようなものは難しい部分もあるかもしれませんが、そうした居場所づくりを今後どうしていくのか、ぜひ検討していただきたいと思う。

2 報告事項（2）地方創生関係交付金活用事業の令和7年度実績について

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

事務局からの説明に対し、委員の皆様からご質問や意見はあるか。

○佐藤裕則委員

先ほども言ったが、シティプロモーションはなかなか難しいと思う。色々な機会を捉え、メディアなどを活用して積極的に取り組んでいただきたい。

もう1点、「歴史的建造物を活用して観光客を増やす」という件について江別市外では「旧岡田住宅」を知らない方が多いと思う。歴史的には大切な建造物で、江別市民であれば多くの方が知っていると思うが、相当なアイデアや取組がなければこの施設だけで観光入込客数を増やすのは難しいのではないかと。 「町村農場」であれば、全道各地のスーパーで特産品が売られていて知名度があるが、旧岡田住宅でどうやって札幌や道内外から人を呼び、お金を落としてもらうのか。何か具体的なアイデアはあるのか。

○事務局

確かに、市外の方に対する知名度の課題はあるかと思う。総合戦略の中では「面的連携」により、地域全体に人を呼び込もうという考え方を持っている。旧岡田住宅単体で呼び込むのは大変かもしれないが、江別駅周辺を含めて、複合的に周遊していただけるような取組を進めることで、人を少しでも多く取り込んでいきたいと考えている。

○小橋委員

私はもともとあった岡田倉庫もよく知っている。数年前に「かわまち勉強会」があった際、旧岡田邸の良さとして「アニメのコスプレをする人たちが写真を撮るのに最適な場所だ」という話を聞いた。風情ある住宅に藤の花が咲いていて、そこがすごく映えるということで、実際に来られている方を私も見ていた。今回、リニューアルするにあたり、当時の勉強会でも「今まで来ていたコスプレの方たちが、また来たいと思える形でのリニューアルになるのか」という議論があったと思う。そうしたコスプレ撮影を楽しんでいた方たちの場が引き継がれるのかどうかを知りたい。また、これは意見としてだが、条丁目の近くの四季の道から、現在、拡張工事をしている道路をって条丁目の方へ行き、そのまま旧岡田邸、川の方まで行けるルートがある。このルートを一体的な面的整備として盛り上げていけないか、ご検討いただければと思っている。

○事務局

旧岡田住宅の改築に関しては、歴史的な建造物として、建物の意匠や古い階段、化粧造りになっている部分などを解体工事の際に残し、改築時にそれらを使った形でリニューアルできるよう進めている。コスプレをされる方にとっても、歴史的な建物が背景にあるのが重要かと思いますので、引き続きそうした方々にも来ていただけるものと考えている。

○鈴木委員

資料3の「協働学習ツールの導入による協働的な学びの充実事業」について、K P I がほぼ達成されつつあるのは素晴らしいことだと思う。評価コメントの中で「人員が確保されて事業が進んでいる」とあるが、これは小中学校が対象だと思う。今、生成A I の活用が話題になっていて、高校や大学、その先でA I を活用するにあたって、中学校

あたりからその使い方や活かし方を学んでいくことが必要になると思う。A Iを使いこなして正確な情報を集め、自分の思考として周囲とプレゼンテーションや意見交換をしていく。それが江別市の豊かな人材育成に繋がると思うのだが、こうした新しい教育に現場の先生方もお困りのことがあるかと思う。現場の人員確保や指導力について、どのような指標で問題ないと判断されているのか教えていただきたい。

○事務局

人員確保の詳細な資料は手元にないため、担当課に確認し後日回答させていただきたい。

学校現場におけるA I導入状況については、小学生向けの「A Iドリル」など、個人の学習状況に応じた指導ができるツールの導入や、先生方の業務（保護者向け資料作成など）を効率化するツールは導入している。一方で、子どもたちが実際にA Iを使って作業をすることについては、文部科学省のガイドラインに基づき基本的には積極活用の方針が示されているが、個人情報の流出などの懸念もあるため、現状は慎重に導入を検討している状況である。

○保田委員

まず1点目、先ほどの協働学習ツールの件。現在、小学校でもI C T活用が進められており、新カリキュラムで学んだ新しい先生方はI C Tを使った主体的・対話的な学びの工夫に慣れているかと思う。一方で、旧カリキュラムで学ばれたベテランの先生方にとっては、急激なI C T導入は大変かと思うが、教育委員会などで積極的な研修や勉強会などは行われているのか。

○事務局

先生方に対する機器の使い方の説明や、それぞれの学校での研修は実施している。また、指導方法についても勉強会や研究会を随時行っており、どのような指導方法が子どもたちにとって有益か、研究や取り組みを進めている。

○保田委員

2点目の質問が、シティプロモーションについて。江別市の観光についてネットで調べてみると、なかなかピンポイントで出にくいという印象がある。江別市観光協会では歴史的な施設が幾つもあるという情報が載せられている一方で、市のホームページの観光振興課のページを見ると、先ほども話に出ていたイラストマップが情報一覧のところに載せられているだけになっている。クリックするとすぐマップが出るなどの工夫を加えていただけると、検索時にヒットしやすくなるのではないかなと思った。理由としては、今、海外から来る方も含め歴史に関心がある方が多いので、例えば江別でいえばレンガが有名なのでレンガづくりなど、積極的に触れたいという方もいるかと思う。ただ、検索を細かくしてかないとヒットしないとなると、印象付けも難しいと思うので、観光を前面に出していくようなホームページのリニューアルもいいのではないかなと思った。

○事務局

広報広聴課でホームページのリニューアルに取り組んでいる。入り口に情報がたくさんありすぎて「自分の知りたい情報がどこにあるのか分かりづらい」という課題は認識しているところ。いただいたご意見を広報広聴課に伝え、リニューアルに活かしていきたいと思う。

○小橋委員

旧岡田住宅（岡田倉庫）が完成した際、観光客数は年間でどのくらいを見込んでいるか。

○事務局

来場客数については、K P I の目標値として「22,800 人」という数字を設定している。

2 報告事項（3）江別市DX推進方針の令和7年度実績及び3年間の総括について

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

事務局からの説明に対し、委員の皆様からご質問や意見はあるか。

○鈴木委員

4 ページ目のデジタルデバйд対策について。高齢者向けのスマートフォン教室を開催されているとのことだが、これがかなり効果を発揮してくれば、現在、市役所から町内会の班長にお願いしている「全戸配布（広報やチラシ等の手渡し配布）」をすべてデジタルに移行できるのではないかと考えている。例えば、個人情報漏洩しないような連絡用アプリや、一方的に班長から発信できる仕組み、あるいは「広報が更新されたのでホームページをご覧ください」という一文を流すだけで済むようになれば、班長の負担も減り、紙代などの予算もかなり削減できるのではないと思う。もちろん、どうしても紙が必要な高齢者の方もいると思われるので、そうした方は公共施設やコンビニ等に取りに行ってもらい、基本的には「町内会の全戸配布はデジタルを基本とし、必要な方には丁寧にご案内する」という方向に進めていけそうかどうか、教えてほしい。私自身が班長をやっており、今はまだ配布できているが、これが年齢を重ねると、配布作業はかなり大きな負担になるのではないかと懸念している。

○事務局

当市で実施しているスマホ相談窓口（デジタルデバйд対策）は、5月から2月までの毎週月曜日午前中に実施している。率直な感想としては、当初は本当に基本的な使い方を知りたいという方が多かったが、同じ方が何度も通って上達し、今では質問内容がかなり高度化している。こうした活動が実を結んでいけば、将来的には現在紙で情報を得ている方も、LINE などのデジタルツールに移行していけるのではないと思う。ただ、現状として、おおむね 60 代以下の方はデジタルを難なく使いこなされているが、

70 代を超えると苦勞されている方が多く、世代間のギャップがあると感じている。将来的には満遍なく皆さんが使えるよう支援したいと考えている。

また、予算がどれだけ削減できるかについては具体的な試算はすぐには難しいが、紙とデジタルの両方の良さを考えながら、全体として進めていきたいと考えている。

○佐藤誠一委員

市内に 163 ある自治会のひとつに「新栄台西自治会」という非常にデジタル活用が進んでいる自治会がある。そこでは、班長は会費を集めない、回覧板も回さない、会議はペーパーレスという形で運営している。デジタル化に関する相談窓口を自連協事務局である市民生活課や N P O 法人に設けており、1,000 世帯を超えるような大規模な自治会からも相談が来て、実際にペーパーレス化に移行している。一方で、200 世帯や 500 世帯以下の比較的小さな自治会では、「そこまでしなくても、今まで通りでよい」という考え方もあり、なかなか移行が進まない。ただ、これは 5 年、10 年経てば役員も自然と入れ替わるので、無理に強制はしていない。

まずはご自身の自治会で「デジタル化をやろう」と声を上げていただくことが大切。市民生活課や自連協としても進める用意はできているので、ぜひご相談いただければと思う。

3 その他

○福沢委員長

次に、次第 3 その他 について何かあるか。

【各委員：無し】

○福沢委員長

事務局からその他について、何かあるか。

【事務局：無し】

○福沢委員長

それでは最後に、佐藤 C I O 補佐官から一言お願いしたい。

○佐藤 C I O 補佐官

今年度から C I O 補佐官として就任した。昨年度まではオブザーバーとして参加していたが、これからは事務局の立場ということでよろしくをお願いしたい。

今年度、江別市役所の職員にヒアリングとアンケート調査を行っており、今日の議論の中でも出ていたが、市役所の仕事はどういうふうにあるべきなのか、市役所はどういうふうにありたいのか、職員の皆さんはそのために何をしたいのか、逆に何が課題だと思っているのか、というのをアンケートと私自身のヒアリングにより、定量・定性の双方から確認をしているところ。それらを元に、今後、市役所の D X を進めていき、本日議論で出たようなこと、新しいことでも変えないといけないようなこともあるとは思いますが、それをどんどん変えていける自治体となるように、私も C I O 補佐官として努め

ていきたいので、引き続きよろしくお願いいたします。

○福沢委員長

本日予定していた議事は全て終了した。

以上をもって、第1回江別市総合戦略推進委員会を閉会する。

4 閉会